

令和三年度 軽井沢高等学校入学式 式辞

浅間山麓の、海拔千メートルを超えるここ軽井沢もすっかり春めいてきました。この地の花である「こぶし」も、鮮やかな白い花を咲かせ始めています。

今日ここに、保護者の皆さまとともに、新入生を迎えられることを、たいへんうれしく思います。職員一同、お子様の成長を、誠心誠意支援してまいります。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。これまで支え、応援してくださった人に感謝の気持ちを忘れずに、軽井沢高校での学びを充実したものにしてほしいと思います。

高校の三年間は、皆さんが自立して社会に出ていくための大切な期間です。勉強やクラブ・生徒会活動、地域での学習など様々な経験を積みながら、自分の良さを知り、仲間の良さを認め、様々な人と協力しながら身のまわりや社会を良くしていける、そんな人になってほしいと思います。

皆さんは、一人ひとり、かけがえのない存在として生まれ、それぞれ異なる環境で成長してきました。同じものを見ても心惹かれるものは違うでしょうし、同じ経験をしていてもそこから受け取るものも異なります。皆さんには、人との比較でなく、自分の良さや好きなこと、得意なことを見つけてほしいと思っています。それがこれから生きていく自信や活力、生きていくうえで大切にしたい人生の哲学になるはずです。

「リーダーシップ」という言葉を最近聞きます。これは、人の先頭にたって仲間をぐいぐい引っ張っていくといった、いわゆる一般的な「リーダー」の意味ではなく、自分自身の好きや得意を、身のまわりの社会と結びつけ、主体的に行動し貢献するという意味だそうです。皆さんには、軽井沢高校の学びを通して、自分自身の人生をリードして社会に貢献する、その核となる「好き」や「得意」を見つけてほしいと思っています。

まだ、自分の「好き」や「得意」がないという人もいるかもしれません。そういう皆さんは「人よりほんの少し努力するのがつらなくて、ほんの少し簡単にできること」を見つけてほしいと思います。「人よりほんの少し努力するのがつらなくて、ほんの少し簡単にできること」それが皆さんの可能性の芽となることでしょう。

軽井沢高校は、七十八年の長い歴史と伝統のある学校です。卒業生は一万人を超え、各界で活躍する方々を多数輩出しています。また、多くの卒業生が、ここ北佐久地域を中心とした経済や産業・文化、教育・福祉を支えています。

本校は、大きな学校ではありませんが、その分、先生方は、皆さんひとり一人に寄り添って丁寧に指導・助言してくれます。地域の支援もあり、軽井沢町によって、一昨年、学校内に公設塾「軽井沢町学習センター」が開設され、この四月からは、町の職員の方も常駐して、学校の魅力化に取り組んでいただきます。皆さんには、この軽井沢高校とこの地域を学びのフィールドとして、のびのびと自由に自らの学びを追求してもらいたいと思っています。

さて、新型コロナウイルス感染症対策の中で新学期が始まります。

大切なのは、皆さんの命と、皆さんの大切なひとの命です。私たち一人ひとりに適切な感染症対策と慎重な行動が求められています。また、感染者が出たとしても、誹謗・中傷は決して許されるものではありません。差別や偏見のない学校をともにつくっていきましょう。

三年後、皆さんが「軽井沢高校で学んでよかった」と心から言えるような、楽しくそして充実した高校生活になることを切に願い、式辞といたします。

令和三年四月六日

長野県軽井沢高等学校長 下井 一志